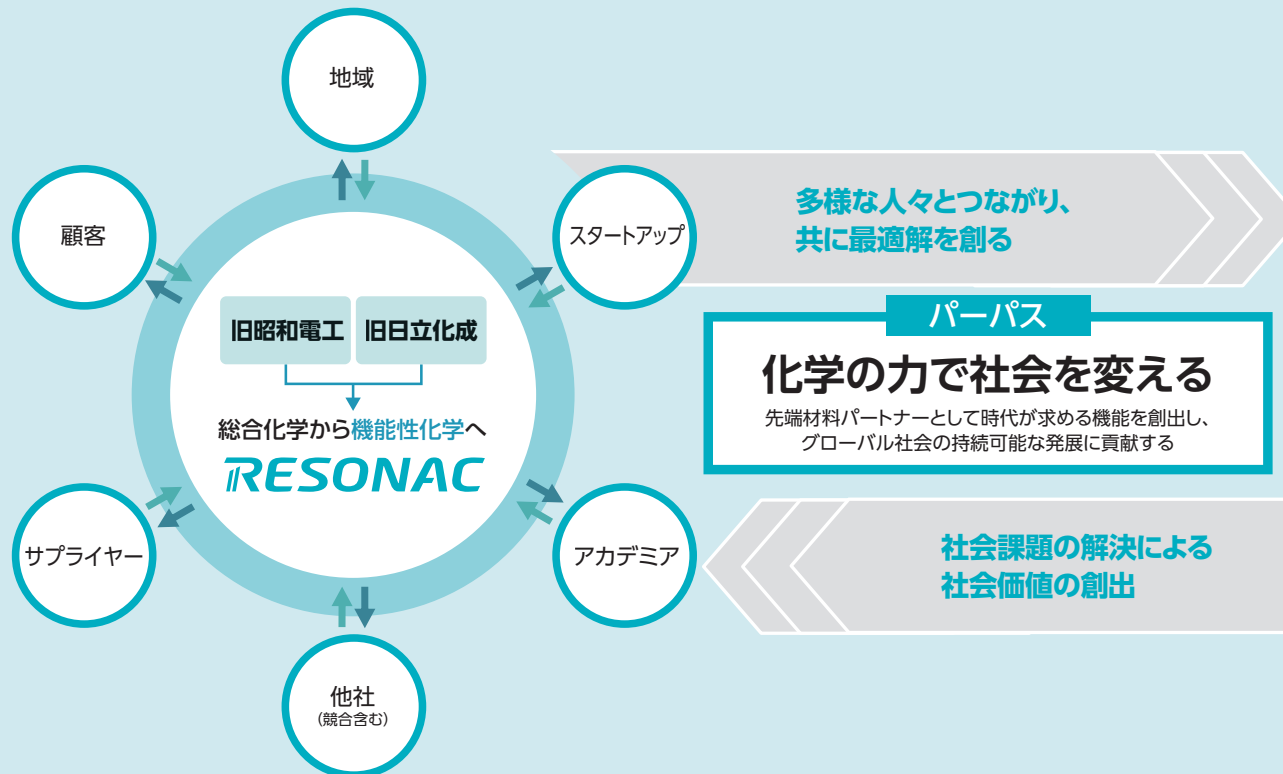


[特集] 共創型化学会社とは

## レゾナックは「共創型化学会社」を目指します

**Why?** あらゆる産業の起点である化学メーカーだからこそ、  
さまざまな「ステークホルダーとの共創」で社会課題を解決へ導けるはず

昨今のグローバル社会は産業構造が目まぐるしく変化し、そのスピードは加速し続けています。さらに、産業が抱える課題は複雑で大きすぎるため、一社単独で解決できるものではありません。化学はあらゆる産業の起点だからこそ、さまざまなステークホルダーと共創することで社会課題を解決できるはず。そして当社は現在、半導体・電子材料事業を成長の中心に据え、集中的に投資する戦略を取っています。半導体は技術の革新が非常に速い上、さまざまな技術の掛け合わせが必須であり、求められる機能をハイスピードで創出するために社内外ですり合わせる共創が欠かせません。私たちは「共創型化学会社」として多様な人材と共に新たな機能をいち早く創り出し、化学の力で社会を変えていきます。

[P11 / 価値創造プロセス](#) > [P45 / 長期ビジョン](#)


## 化学の力で実現したい未来

カーボンニュートラルや  
循環型社会形成

製造時の環境負荷削減

EV化

再エネ活用

資源リサイクル

## 人々の幸せと豊かさ

データ社会への対応

データセンター

処理スピードの向上

次世代通信技術

AI



# Who? イノベーションを生み出す「共創型化学会社」となるためには、 パーパスとバリューを体現する「共創型人材」が必要

当社がイノベーションを生み出し、化学の力で社会を変える「共創型化学会社」となるには、パーパス・バリューを体現する人材、つまり「社会課題の解決に向け、社内外の人々と自律的につながり、共創を通じて創造的に変革と課題を解決できる人材の存在」が欠かせません。

「キャリアのオーナーは従業員」という考えのもと、個々の目指す方向性に応じた多様なキャリアパスや教育の機会を用意するほか、社内外のつながりを支援するさまざまな仕組みを始動させています。

その一つが、全レゾナックグループを対象とした事前エントリー制のグローバルアワード「AHA!」です。各職場のみならず、組織の垣根を超えたチームが、パーパス・バリューを踏まえた行動宣言を策定し、それに基づく目標と具体的な取り組み内容を定め、自らエントリーして活動します。その後、選考会の場で、取り組みの過程で実践したバリューの経験を語り合います。これにより従業員の共感の和 (Harmony) が生まれ、数多くの枠を超えた共創が実現することを目指しています。

また、共創型リーダーシップトレーニングや共創型コラボレーション力強化研修など、独自の教育研修を取り入れ、世界各地のレゾナック拠点で活動する多様な従業員がさらにチームとしてパーパスを実現できるよう、共創型人材の育成に取り組んでいます。

[P19 / Letter from the CEO](#) > [P35 / Letter from the CHRO](#) > [P91 / 人材戦略](#)



イノベーション・社会価値を生み出すには  
**パーパス・バリューを体現する「共創型人材」が必要**  
社会課題の解決に向け、社内外の人々と自律的につながり、  
共創を通じて創造的に変革と課題を解決する

社会課題解決への  
情熱

会社や部門を超えて  
共創する

謙虚に、粘り強く  
変革をリードする

パーパス 化学の力で社会を変える

バリュー (大切にしている価値観)



プロフェッショナルとしての  
成果へのこだわり



機敏さと柔軟性



枠を超えるオープンマインド



未来への先見性と高い倫理観

## 共創型人材の創出につながるグローバルアワード



多様なチームの活動を知ること、「あ！」とひらめき、今までできなかったことや理解できなかったことができるようになるAHA体験から共感の和(Harmony)が生まれ、枠を超えた共創を実現するアワードという想いが込められています。

\* AHA! : Awards of Harmony、旧昭和電工と旧日立化成両社で行われてきたグローバルアワードを引き継ぎ、改めて始動

### 自分自身の成長の機会

POINT  
01

- ・活動に自律的に取り組む
- ・さまざまなメンバーとの協働や部門を超えた活動
- ・仲間を見つける
- ・普段とは違う視点で活動ができる

POINT  
02

### 横のつながりの場

- ・エントリーチーム同士の交流
- ・周囲に活動(自分の仕事)をPRできる



# How and Where?

さまざまなステークホルダーと「共創できる場所」を開設し、より良い社会を創り出す先端技術を、多様な人々と共創する

レゾナックR&Dの中核となる  
オープンイノベーション拠点

## 「共創の舞台」

[WEB](#)

当社は、世の中のニーズや社会の声を聴き、社会課題を解決するため、レゾナックのR&Dの中核となるオープンイノベーションの拠点「共創の舞台」(神奈川県・横浜市)を設立しました。レゾナックの強みである「計算科学」「材料解析」「量産化技術・設備管理」「化学品安全管理・評価」の機能を持つ組織が集結し、さらに周辺地域や国内外のベンチャー企業や大学などとの協働・共創を通じて、より良い社会を創出するための先端技術の開発を目指します。

[P65 / R&D・知的財産戦略](#)

## 研究開発の 中枢拠点としての機能

レゾナックの先端分野の研究開発、  
研究サポート機能の集約、計算科学とAIを  
融合した開発手法の創出により、研究開発を加速

## 知見集約の プラットフォーム機能

社内外との共創により  
社会課題解決を通して価値を創出

- ベンチャー企業や大学とのコラボレーション
- 社内外コラボレーション
- AI推進機能、ラーニング機能(VR設備など)の活用
- グローバルカンファレンス/研修技術の掛け合わせ



## 共創の舞台、「発進!」

2023年4月4日、レゾナックとしての「共創の舞台」開式式を開催しました。役員や来賓、共創の舞台で活躍する複数の従業員がテープカットを行い、共創に向けた取り組みへの期待や、この舞台で仕事することへの意気込みを語りました。2024年の全面オープンに向け、2023年中に開発メンバーの大半が入居し、本格始動します。

[P32 / Letter from the CTO](#)

他社と共に次世代半導体の技術革新に挑む

## 「パッケージングソリューションセンター」

[WEB](#)

当社は、進化・複雑化していく半導体パッケージに対応する先端技術の創出を目指し、2019年に「パッケージングソリューションセンター」(神奈川県・川崎市)を開設しました。半導体メーカーが導入している半導体パッケージ製造装置と同等ともいえる最先端の設備を揃えているのが同センターの最大の特長です。多様な半導体向けの材料を使用して半導体そのものの実装や評価、シミュレーションをすることが可能であり、製造プロセスを一気通貫で検証できることは、材料の高機能化と開発スピードの向上に大きく貢献しています。同センターは、自社での活用にとどまらず業界に広く開放しており、他社や大学などとも交流しながら、次世代半導体製造の課題解決に挑戦しています。さらにNEDO助成事業として、半導体装置・材料・基板メーカー12社\*とコンソーシアム「JOINT2」を設立し、技術や情報の相互活用などを通じて、次世代半導体の高密度実装を実現するための技術開発に取り組んでいます。参画企業同士の材料・技術を組み合わせることで、お客さまにとって最適なワンストップソリューションの提案が可能となります。

[P77 / 半導体・電子材料セグメント](#)

\* 味の素ファインテクノ、上村工業、荏原製作所、新光電気工業、大日本印刷、ディスコ、東京応化工業、ナミック、パナソニック コネク、メック、ヤマハロボティクスホールディングス、オーク製作所

# JOINT2

東京大学大学院 黒田忠広教授からのメッセージ

[WEB](#)

昨今、日本の半導体ウェハー製造の世界シェアは低下したものの、半導体材料や製造装置の分野ではまだまだ世界と戦える力を持っています。いち早く半導体の後工程に着目し、最新の設備と幅広いネットワークを所有しているレゾナックさんは、とても良いポジションを取られていると感心しています。



# Now What?

さまざまな課題解決に向けた共創が「始動」し、  
ありたい姿への実現に向けて着実にステップアップ

## Case.1 > 「共創の舞台」で取り組む、次世代に貢献する長期R&Dテーマ

### 次世代高速通信材料開発

次世代高速通信（6G）を実現するには、通信速度を5Gの100倍にするために伝送損失を大幅に削減する新たな半導体材料が求められます。レゾナックは6Gに搭載される次世代半導体に向けた新材料を生み出すため、大学やベンチャー企業と協業しながら樹脂、フィラー向けのセラミックス・界面制御技術など、素材合成からゼロベースで開発を進めています。

分子設計・材料設計段階から計算科学の力も活用することで、従来一つの組み合わせの検証に3ヶ月必要だったところを、同じ期間で90種類もの組み合わせの検証が可能になります。

### プラスチックの「循環型」ケミカルリサイクル

化石資源の消費抑制やCO<sub>2</sub>排出量の削減、ひいてはカーボンニュートラルの実現に向け、使用済みプラスチックを分解して原料の状態に戻し、再びプラスチックの製造に利用する「循環型」ケミカルリサイクルの確立に挑戦しています。

2022年からマイクロ波化学（株）と共同で技術開発を進めており、使用済みプラスチックのモデルサンプルを用いた実験では、約80%の収率でエチレンやプロピレンなどの原料成分を取り出すことに成功し、基礎技術の確立に一定の目的が立ちました。プラスチックの分解メカニズム解明や触媒探索にAI・計算科学を活用し、スピーディーに開発を進めています。



マイクロ波化学様からのメッセージ

時代に先駆けてケミカルリサイクル事業を軌道に乗せたレゾナックさんに協業をお声がけいただいたとき、マイクロ波化学の技術とレゾナックさんのノウハウが融合すれば、世界に類を見ない循環型のケミカルリサイクルの新事業を必ず実現できると確信しました。両社が常に対等で、自由に意見交換できる雰囲気が、技術開発の加速につながっていると思います。

左:マイクロ波化学株式会社 研究開発部 事業推進グループリーダーの木谷氏  
右:同 事業開発本部マネージャー兼ケミカルリサイクル事業室室長の亀田氏

## Case.2 > パワーモジュール素材の評価において顧客との共創を始動 WEB

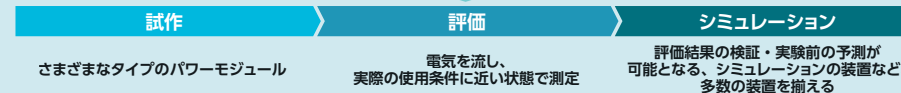
自動車の電動化に欠かせない「パワー半導体」とそれをパッケージした「パワーモジュール」の材料開発を強化するため、「パワーモジュールインテグレーションセンター」（栃木県・小山事業所内）を本格始動させました。同センターでは、自社の多彩なパワーモジュール関連材料をモジュール化して評価を行う組織として、材料開発の発展やスピード向上に活かしてきました。2023年からは、お客さまの条件での材料評価を開始し、検証内容を共有することで、お客さまの素材開発まで遡った技術革新の支援と、パワーモジュールの開発期間短縮に寄与しています。実際、すでにお客さま側の試作評価回数を従来の2分の1に削減できた事例も出ており、2025年にはお客さまと共同で評価する体制を構築し、さらなる開発期間短縮への貢献を目指します。

また、マーケティングプロセスにおけるパワーモジュール関連材料の価値提案活動も始動しています。

[P70 / 自動車関連市場へのマーケティング活動](#)



自社の多彩なパワーモジュール関連材料を検証に活用



### 2025年までにパワーモジュール素材の開発から顧客採用までの期間短縮を目指す

